

令和2年度長岡市水道事業の決算概要について



決算の概要は、次のとおりです。
以下の項目ごとに解説していくね！

※下線箇所をクリックすると、そのページに移行します。

1 給水状況 . . . 2 ページ

令和2年度末における給水状況は、給水人口247,227人、年間配水量3,317万 m^3 、そのうち料金収入の対象となった水量（有収水量）は2,868万 m^3 となりました。前年度と比較し、給水戸数は増加したものの、給水人口は▲2,009人減少しました。給水人口減に伴う配水量の減少があったものの、新型コロナウイルス感染症の影響により家庭用が増加したことから、年間配水量は16.3万 m^3 、年間有収水量5.7万 m^3 の微増となりました。

2 水道管や施設の整備（建設改良費） . . . 3 ページ

安全で安心な水を安定的にお届けするために、令和2年度は24.6億円を投じて水道管の入替えや耐震化、浄水場などの設備更新を実施しました。また、施設の効率的な運用を目指した与板・寺泊浄水場の妙見浄水場への統合事業として、送水管の布設に着手しました。

3 財務諸表から見た財務状況 . . . 4 ページ

水道水をつくるための収入と支出（収益的収支（税抜き））では、収益59.0億円に対し、費用は52.2億円となり、収支差引き6.8億円の純利益が生じました。

基幹収入である給水収益（水道料金収入）は46.9億円で、前年度と比較し400万円（+0.08%）増加しました。また、前年度に処分した100Bq/kgを超える放射性物質を含む浄水汚泥処分費用等に対する賠償金があったため、前年度と比較して収益は1.6億円（+2.82%）増加しました。一方で支出では、上記の浄水汚泥処分に要した費用減など、前年度と比較して▲2.1億円（▲3.79%）減少したため、純利益は前年度から増加しました。

ここでは、3つの財務諸表（損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書）を使い、財務状況を説明していきます。

4 水道料金とその使いみち . . . 7 ページ

ここでは、皆さまからいただいた水道料金がどのように使われたのか、水道事業の特徴を踏まえて説明していきます。

1 給水状況

5か年の給水状況は、次のとおりです。

項目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
給水人口 (人)	254,474	252,946	251,148	249,236	247,227
給水戸数 (戸)	104,225	104,586	105,868	106,126	106,753
配水量 (m ³)	34,525,718	34,852,258	33,924,731	33,002,013	33,165,470
有収水量 ^{※1} (m ³)	29,573,669	29,469,708	29,277,771	28,617,805	28,674,901
有収率 ^{※2} (%)	85.66	84.56	86.30	86.71	86.46

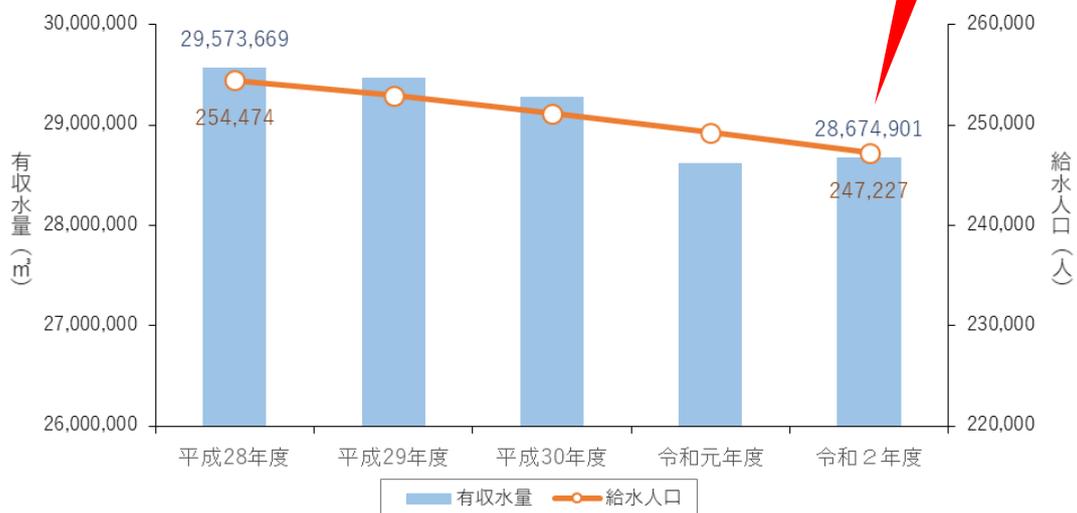
※1 配水量のうち料金徴収の対象となった水量

※2 配水量のうち有収水量の割合

用途別に前年度比較

- ・家庭用 605,262 m³増加
- ・事業用 548,166 m³減少

給水人口と有収水量の推移



令和2年度決算における給水人口と有収水量

●給水人口

宅地造成や世帯分離などにより給水戸数は増えていますが、少子化などの影響に伴い給水人口は減少傾向にあります。令和2年度の給水人口は、前年度と比較すると2,009人減少（▲0.8%）しました。

●有収水量

給水人口の減少や節水型機器の普及などに伴い、有収水量は年々減少していましたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響による巣ごもり需要の高まりから、家庭内での使用量が増加し、前年度から57,096m³増加（+0.2%）しました。

少子化などの社会背景から、給水人口の減少は今後も続くと予測されます。

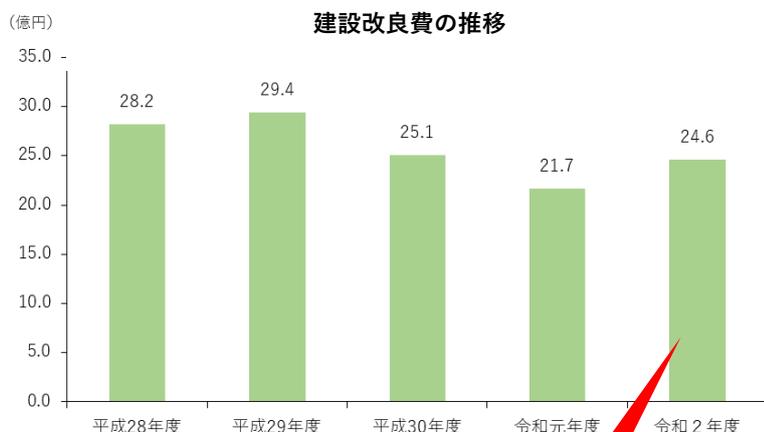
給水人口は、有収水量に大きく影響を与えることから、今後も給水状況を注視しながら経営に取り組みます。

有収水量の増加は10年ぶり。
ただ、これは一時的なもので、今後も給水人口の減少によって減っていく見込みなんだ。



2 水道管や施設の整備（建設改良費）

5か年の建設改良費の推移と令和2年度の建設改良事業は、次のとおりです。



水道事業は、浄水場、配水池、水道管など多くの施設を有し、これらの更新には多額の費用が必要となっています。

平成30年度に栃尾浄水場のろ過池棟の更新が完了したため、一時的に建設改良費が減少しましたが、令和2年度からは浄水場の統合事業の着手に伴い、増加しました。

- 与板・寺泊浄水場の妙見浄水場への統合事業 3.4億円（税込み）
 - ・ 送水管の布設Φ400mm L=2,018.2m ほか
- 水道管の耐震化、ポンプ場などの施設整備 13.2億円（税込み）
 - ・ 布設替Φ50mm～Φ300mm L=8,659.1m
 - ・ 青葉台ポンプ場電気設備更新工事 ほか
- 浄水場の施設整備 8.0億円（税込み）
 - ・ 妙見浄水場2系ろ過池機械設備更新工事
 - ・ 妙見浄水場濃縮槽築造工事 ほか

古くなった水道管や施設などの更新だけでなく、与板・寺泊浄水場の妙見浄水場への統合事業のような未来への投資も必要だね。



令和2年度に実施した建設改良事業について

安全な水を安定してお届けするために老朽化した水道管の入替えや機械設備などの更新を進めました。また、水の使用量の減少が進む中、施設の効率的な運用を図るため、与板・寺泊浄水場の妙見浄水場への統合事業をスタートさせ、送水管の布設に着手しました。

既存の水道管や浄水場などの施設は、今後も適切な維持管理により長寿命化を図るとともに、計画的に更新を行います。なお、更新にあたっては、水の使用量の減少を踏まえ、適正な規模への見直し（ダウンサイジング※など）を図っていきます。



与板・寺泊浄水場の妙見浄水場への統合事業（三島地域）



妙見浄水場濃縮槽築造工事（妙見町）

※規模を小さくすることを意味します。水の使用量の減少に合わせ、既存の水道施設の供給能力を小さくして更新する場合や、複数ある水道施設の統廃合により供給能力を小さくする場合があります。

3 財務諸表から見た財務状況

(1) 損益計算書

損益計算書は、水道事業がどのような経営活動によって、どれだけの経営成績（黒字or赤字）を上げたのかわ知るための財務諸表です。令和2年度決算の損益計算書は、次のとおりです。

(単位：百万円、税抜き)

	令和2年度	令和元年度	増 減
営業収益 ①	5,035	5,055	▲ 20
給水収益	4,690	4,686	4
加入金、下水道受託収益等	345	369	▲ 24
営業費用 ②	4,956	4,933	23
原水及び浄水費～総係費等	2,523	2,449	74
減価償却費等	2,433	2,484	▲ 51
営業利益 ③ (①-②)	79	122	▲ 43
営業外収益 ④	651	686	▲ 35
他会計補助金	16	24	▲ 8
長期前受金戻入収益	539	542	▲ 3
雑収益等	96	120	▲ 24
営業外費用 ⑤	269	270	▲ 1
支払利息等	240	265	▲ 25
雑支出	29	5	24
経常利益 ⑥ (③+④-⑤)	461	538	▲ 77
特別利益 ⑦	217	0	217
特別損失 ⑧	1	230	▲ 229
純利益 (⑥+⑦-⑧)	677	308	369

通常の活動による利益

通常の活動では発生しない収益や費用

損益計算書から見た令和2年度決算について

●給水収益（水道料金収入）

給水人口の減少や節水型機器の普及などにより給水収益は減少傾向にありましたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響から、巣ごもり需要が高まり、家庭内での使用水量が増加したことから400万円増加しました。

●営業利益

水の製造・販売といった通常の活動による収支はプラスという結果となりましたが、水の製造にかかる薬品費や修繕費などのコストが増加したことから、前年度より4,300万円減少しました。

●純利益

通常の活動では発生しない放射性物質を含む浄水汚泥処分（東日本大震災の原発事故によるもの）の経費や賠償金により、純利益は前年度から増加しました。

給水収益や賠償金などにより純利益は増加しましたが、今後は給水人口の減少に伴う収入減に加え、施設の維持管理費の増加が見込まれることから、純利益の確保が難しくなると想定されます。

令和2年度は黒字だったね！
ただ、水の製造などにかかる費用が増えているから、今後はコスト削減に取り組むことも重要だね。



(2) 貸借対照表

貸借対照表は、年度末において保有しているすべての水道資産がどのような財源でつくられたのか（資産＝負債＋資本）を表す財務諸表です。令和2年度決算の貸借対照表は、次のとおりです。

(単位：百万円、税抜き)

▽資産がどのような状態で、いくらあるのか

▽資産がどのような財源でつくられたのか

資産の部				負債の部			
資産の部	令和2年度	令和元年度	増減	負債の部	令和2年度	令和元年度	増減
固定資産	49,623	49,606	17	固定負債	17,249	17,453	▲204
有形固定資産	107,212	105,474	1,738	企業債	15,758	15,988	▲230
有形固定資産減価償却累計額	▲57,957	▲56,278	▲1,679	引当金	1,491	1,465	26
無形固定資産	368	410	▲42	流動負債	2,774	2,720	54
流動資産	8,321	8,035	286	企業債	1,430	1,391	39
現金預金	8,072	7,556	516	引当金	60	57	3
未収金	218	436	▲218	未払金	955	1,071	▲116
その他	31	43	▲12	預り金等	329	201	128
				繰延収益（長期前受金）	10,315	10,606	▲291
				負債合計	30,338	30,779	▲441
				資本の部	令和2年度	令和元年度	増減
				資本金	20,741	20,018	723
				剰余金	6,865	6,844	21
				資本剰余金	470	469	1
				利益剰余金	6,395	6,375	20
				資本合計	27,606	26,862	744
資産合計	57,944	57,641	303	負債・資本合計	57,944	57,641	303



今後、古くなった水道管や施設などの更新費用が増えてくるから、企業債の借り過ぎには注意しなきゃだね。

《用語解説》

有形固定資産

土地や建物、水道管、機械設備など

無形固定資産

刈谷田川ダムを使用する権利など

流動資産

1年以内に現金化できる資産

企業債

借金のこと。1年以内に返済する予定の額は流動負債に、1年を超えて返済する予定の額は固定負債にそれぞれ整理

未払金

1年以内に支払わなければならないもの

預り金等

税金や社会保険料、下水道使用料など預かっている現金など

繰延収益（長期前受金）

国庫補助金など

資本金

純利益や一般会計出資金などを組み入れた額

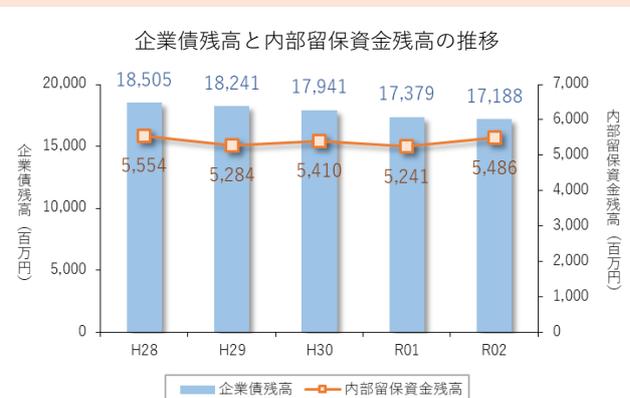
利益剰余金

純利益と企業債の返済を目的とした積立金など

貸借対照表から見た令和2年度決算について

一般的に水道事業は、水道管や施設をつくる費用の大部分を借入金に頼っていることから、企業債（借入金）は多くなる傾向にあります。当市ではこれまで蓄えてきた内部留保資金を活用して借入額の抑制に努めてきたことから、企業債残高を減らすことができました。（右図参照）

ただし、今後は水道料金収入が減少し、老朽化した水道管や施設などの更新費用が増加していくことが見込まれていることから、その財源として企業債の借入額が増えると想定されています。



減価償却費など費用として計上しても実際に現金支出を伴わないものや、これまでの純利益を蓄えた資金を内部留保資金といい、5か年では50億円台を維持しています。

(3) キャッシュ・フロー計算書

キャッシュ・フロー計算書は、1年間における現金の収支状況を活動区分別に表した財務諸表であり、損益計算書や貸借対照表では読み取れない「現金の流れ」を確認するためのものです。令和2年度決算のキャッシュ・フロー計算書は、次のとおりです。

(単位：百万円、税抜き)

資金期首残高	①	7,556
令和2年3月31日時点の現金残高		
業務活動によるキャッシュ・フロー	②	3,000
事業の主たる業務活動による現金の出入り（水道料金や施設の維持管理費など）		
投資活動によるキャッシュ・フロー	③	▲ 2,360
設備投資等による現金の出入り（有形固定資産の取得費や売却代金、国庫補助金の収入など）		
財務活動によるキャッシュ・フロー	④	▲ 124
外部からの資金調達とその返済による現金の出入り（補助金、企業債の借入れや返済など）		
資金期末残高	⑤ (②+③+④)	8,072
令和3年3月31日時点の現金残高		
資金増減額	⑥ (⑤-①)	516
令和2年度の前年度との比較		

※損益計算書や貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書の詳細は、[令和2年度決算書](#)をご覧ください。

○キャッシュ・フロー計算書の読み方

令和2年度はパターン①に該当

	業務活動	投資活動	財務活動	説明
パターン①	プラス	マイナス (▲)	マイナス (▲)	本業の業績は概ね良好であり、借入金残高を減少させつつ建設改良に係る投資も実施しており、 比較的良好な経営状況にあると想定される。
パターン②	プラス	マイナス (▲)	プラス	本業の業績は概ね良好であるが、建設改良に係る投資財源を借入金に依存し、かつその残高が増加しているため、 今後の返済負担増加が想定される。
パターン③	マイナス (▲)	マイナス (▲)	プラス	本業の業績は厳しく、建設改良に係る投資財源に加え、日常の運転資金も借入金に依存している可能性があり、 資金繰りが非常に厳しくなっていると想定される。

キャッシュ・フロー計算書から見た令和2年度決算について

- 決算が黒字であったとしても、支払い能力がなければ、倒産する恐れがあります。そのため、事業を継続していくための資金が不足しないように「現金の動き」を把握することは、とても重要となります。
- 当市は、水をつくるための設備投資や借入金の返済を賄うだけの現金を有しており、経営状況は比較的良好であることがいえます。(キャッシュ・フロー計算書の読み方(上表参照)のパターン①に該当)

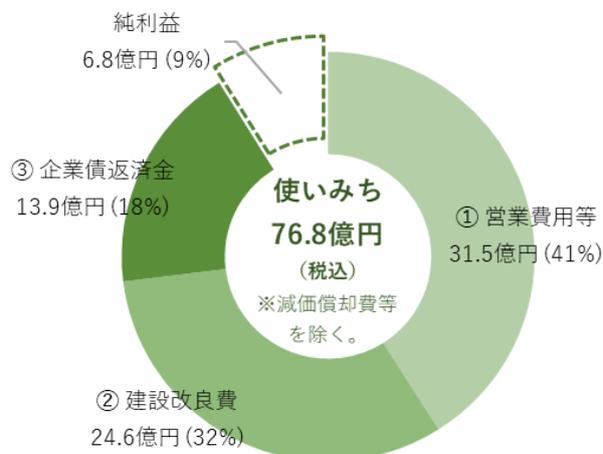
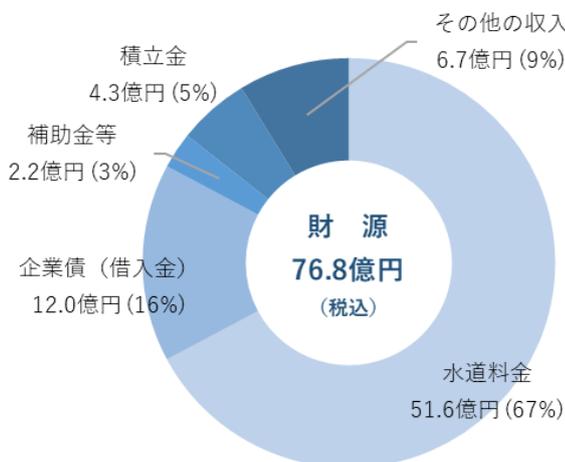
今後も現金の保有額を適切に管理し、経営に支障が出ないように取り組みます。

資金繰りはうまくいってるようだね！
黒字だから経営は大丈夫だという訳でなく、現金の動きにも着目していかなきゃいけないんだね。



4 水道料金とその使いみち

令和2年度の水道事業の運営における財源とその使いみちは、次のとおりです。



水道事業は、お客さまからいただいた水道料金を主な財源として運営をしています。

ただし、水道料金収入だけでは事業運営はできないため、企業債 (借入金) を活用して、浄水場などの施設整備や水道管の新設・入替えといった費用に充てています。

この他の収入としては、国や一般会計からの補助金のほか、積立金などがあります。

財源の使いみちとしては、大きく3つに分類されます。

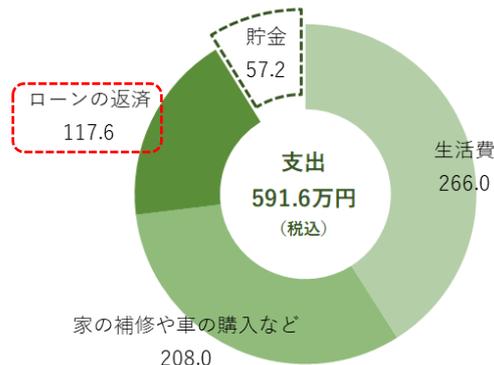
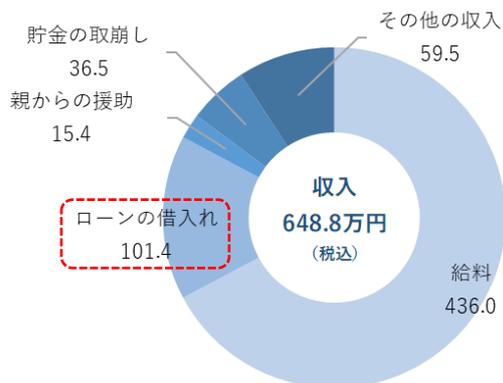
- ①きれいな水を、ご家庭などに届けるための費用
 - ②浄水場などの施設整備、水道管の新設、古い水道管の入替工事のための費用
 - ③水道管整備等のために借りたお金の返済
- ※純利益は、翌年度以降の借入金返済のために積み立てました。

今は大丈夫だけど、これからだんだん経営が厳しくなる見通しだから、収支のバランスに気をつけながら、計画的に事業運営をしていかなければならないね。



◆上記のグラフを家計簿 (水道料金=給料) に例えてみましょう。

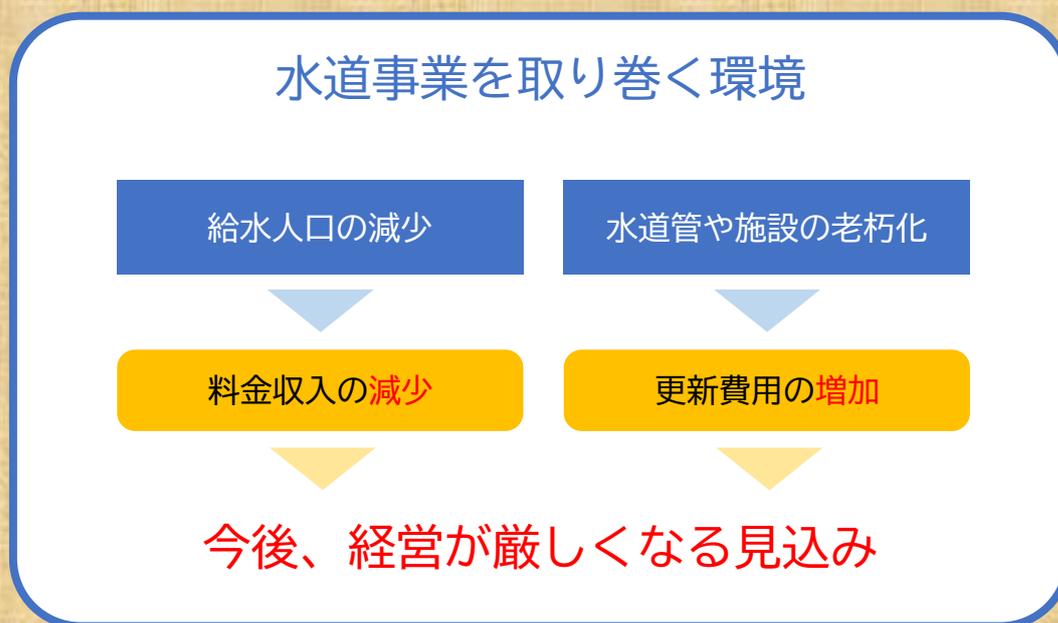
本来であれば、給料の範囲内で家計を賄えることが理想ですが、家の補修や車の購入にたくさんのお金が必要ですので、不足する分をローンで補っています。ローンの借り過ぎにならないように注意しながら、バランスのよい給料の使い方を心がけています。



水道事業の経営は、皆さまからいただいた水道料金によって成り立っています。

じゃ口をひねれば、安全でおいしい水が出る。この当たり前の光景を守っていくために、私たち水道局は、浄水場や水道管などの水道施設を計画的に整備し、24時間体制で水道水の水質や水量などの維持・管理に努めています。

しかし、これまで説明しましたとおり、この先は…



当市は令和3年3月に「長岡市水道事業経営戦略」を策定し、50年先を見据えた今後10年間の取組みについて決めました。

お預かりした水道料金を大切に使い、水道管の入替えや、施設の更新などを計画的に進めることで、皆さまのもとに安全でおいしい水をお届けします。



経営戦略をご覧になりたい場合は、
[『長岡市水道事業経営戦略』](#)のページをご覧ください。
↑こちらをクリックするとページに移行します。